

月別市況

1月

[鮮魚]

取扱数量は8,128tで、前年比0.8%増となり、平均価格は1,898円で、前年比9.1%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は4,973tで、前年比11.8%増となり、平均価格は1,483円で、前年比3.2%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,348tで、前年比3.9%増となり、平均価格は1,286円で、前年比4.7%高となった。

開市日数が前年より1日多かったこと等から、鮮魚、冷凍魚、加工品ではいずれも前年より取扱数量が増加した。平均価格は物価高の影響等により上昇傾向が続いている。

鮮魚は、シケの影響で「ぶり」、「まいわし」などの入荷量が減少したが、「まぐろ類」の入荷が好調だったことから、取扱数量、平均価格ともに前年を上回った。冷凍魚は、「冷まぐろ類」が好調で、取扱数量、平均価格ともに前年を上回った。加工品は、節分が例年より1日早い2月2日(日曜日)だったため、前倒しで「丸干いわし」の売れ行きが伸びたことなどで、取扱数量、平均価格ともに前年を上回った。

2月

[鮮魚]

取扱数量は7,554tで、前年比13.5%減となり、平均価格は1,972円で、前年比19.6%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は4,967tで、前年比6.5%減となり、平均価格は1,477円で、前年比3.6%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,216tで、前年比5.5%減となり、平均価格は1,277円で、前年比3.3%高となった。

開市日数が前年より1日少なかったことやシケの影響等から、鮮魚、冷凍魚、加工品ではいずれも前年より取扱数量が減少した。

鮮魚は、月後半のシケの影響で「さば」、「かつお」などの入荷が安定せず、前年比で取扱数

量は減少し、平均価格は上昇した。加工品は、「しらす干」の入荷が減少したこと等から、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。

3月

[鮮魚]

取扱数量は9,020tで、前年比9.3%減となり、平均価格は1,733円で、前年比8.7%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は4,999tで、前年比15.9%減となり、平均価格は1,604円で、前年比12.9%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,898tで、前年比4.9%減となり、平均価格は1,296円で、前年比1.1%高となった。

天候不順やシケの影響、開市日数が前年より1日少なかったこと等から、鮮魚、冷凍魚、加工品ではいずれも前年より取扱数量が減少した。

鮮魚は、天然魚を中心に入荷が少なかったため、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。冷凍魚は、輸入商品の販売が円安の影響を受け、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。加工品は、「しらす干」で秋漁から続く不漁により、在庫が不十分で荷動きが悪く、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。

4月

[鮮魚]

取扱数量は9,958tで、前年比8.8%減となり、平均価格は1,519円で、前年比10.5%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は6,438tで、前年比1.1%減となり、平均価格は1,522円で、前年比5.6%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,901tで、前年比4.8%減となり、平均価格は1,356円で、前年比3.3%高となった。

米国が発表した関税措置の影響により、一部輸出商品への影響が懸念されたものの、全体としては大きな混乱は見られなかった。

鮮魚は、シケは少なかったものの、不漁が続き、取扱数量は前年比で減少した。加工品は、「練製品類」の値上げの影響などにより、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。

5月

[鮮魚]

取扱数量は10,240tで、前年比0.7%減となり、平均価格は1,511円で、前年比6.2%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,513tで、前年比0.6%増となり、平均価格は1,562円で、前年比5.9%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,390tで、前年比5.7%減となり、平均価格は1,416円で、前年比6.9%高となった。

開市日数は前年より1日多かったものの、中旬以降は販売が鈍化し、全体的にやや低調な荷動きとなった。

鮮魚は、「まぐろ類」の入荷が好調だったものの、一般的に漁獲が少なく、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は魚価高で上昇した。冷凍魚は、「冷まぐろ類」が伸長し、取扱数量、平均価格ともに前年を上回った。加工品では、「しらす干」が不漁となったこと等から、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。

6月

[鮮魚]

取扱数量は9,639tで、前年比2.4%減となり、平均価格は1,500円で、前年比8.9%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,738tで、前年比6.4%減となり、平均価格は1,548円で、前年比4.3%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,449tで、前年比4.7%減となり、平均価格は1,474円で、前年比6.7%高となった。

開市日数は前年と同じだったが、鮮魚、冷凍魚、加工品ではいずれも前年より取扱数量が減少した。

鮮魚は、「ぶり」の入荷が増したが、「かつお」などが減少となり、前年比で取扱数量は

減少し、平均価格は上昇した。冷凍魚及び加工品は、物価高の継続等により相場が高値傾向となり、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。

7月

[鮮魚]

取扱数量は9,283tで、前年比0.1%減となり、平均価格は1,554円で、前年比0.4%安となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,486tで、前年比12.6%減となり、平均価格は1,584円で、前年比9.0%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,142tで、前年比7.7%減となり、平均価格は1,593円で、前年比4.2%高となった。

平年より高い海水温などの海洋環境の変化により、天然魚の入荷が不安定だった。

鮮魚は、「まあじ」、「まいわし」の入荷が増えた一方で、「かつお」、「さば」の入荷は少なく、取扱数量、平均価格ともに前年並みだった。加工品は、「しらす干」の不漁で数量が大幅に減少したこと等により、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。

8月

[鮮魚]

取扱数量は9,160tで、前年比2.1%増となり、平均価格は1,655円で、前年比1.5%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,158tで、前年比6.4%減となり、平均価格は1,629円で、前年比7.9%高となった。

[加工品]

取扱数量は5,813tで、前年比7.8%減となり、平均価格は1,461円で、前年比7.9%高となった。

昨年と比較して台風が少なく、シケが減った影響で、鮮魚は伸長したものの、冷凍魚、加工品は前年より取扱数量が減少した。

鮮魚は、「あじ」などの荷動きは悪かったが、「さんま」の入荷が好調だったこともあり、取扱数量、平均価格ともに前年を上回った。加工品は、「しらす干」の入荷が大幅に減少し単価高になったこと等により、

前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。

9月

[鮮魚]

取扱数量は11,973tで、20.1%増となり、平均価格は1,512円で、前年比2.9%安となった。

[冷凍魚]

取扱数量は4,987tで、前年比5.7%減となり、平均価格は1,646円で、前年比9.4%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,079tで、前年比15.4%減となり、平均価格は1,390円で、前年比20.0%高となった。

秋商材の出回りの時季となり、「さんま」の取扱数量が前年比で大幅に増加し、全体の取扱数量も8カ月ぶりに前年比で増加した。

鮮魚は、「さんま」の入荷が増え、価格が安定し、販売が好調となった影響等により、前年比で取扱数量は増加し、平均価格は下降した。冷凍魚は、相場高により荷動きが悪く、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。加工品は、「しらす干」の不漁が続き、値上げの「練製品類」の販売が鈍かったため、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。

10月

[鮮魚]

取扱数量は11,281tで、前年比3.6%減となり、平均価格は1,648円で、前年比9.4%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,445tで、前年比7.1%減となり、平均価格は1,697円で、前年比13.8%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,597tで、前年比7.6%減となり、平均価格は1,413円で、前年比12.4%高となった。

開市日数は前年と同じだったが、9月とは異なるシケ模様となり、鮮魚、冷凍魚、加工品ではいずれも前年より取扱数量が減少した。

鮮魚は、先月に引き続き「さんま」の入荷が好調で増加したものの、「しろさけ」(秋サケ)の不漁などにより、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。加工品は、「しらす干」の入荷が増

加したものの、依然として続く物価高を背景とした販売不振により、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。

11月

[鮮魚]

取扱数量は10,706tで、前年比3.2%減となり、平均価格は1,672円で、前年比8.5%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,641tで、前年比14.9%減となり、平均価格は1,657円で、前年比10.2%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,584tで、前年比8.9%減となり、平均価格は1,486円で、前年比6.1%高となった。

各種商材の値上げによる販売不振等の影響で、鮮魚、冷凍魚、加工品ではいずれも前年より取扱数量が減少した。

鮮魚は、「さんま」、「かつお」などの入荷が減少し、「しろさけ」(秋サケ)は依然として続く不漁により大幅に減少、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。冷凍魚は、円安と産地価格の高騰による単価高で販売が伸びず、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。

12月

[鮮魚]

取扱数量は10,251tで、前年比0.5%減となり、平均価格は2,246円で、前年比7.2%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は6,908tで、前年比3.6%減となり、平均価格は1,928円で、5.3%高となった。

[加工品]

取扱数量は8,867tで、前年比5.1%減となり、平均価格は1,728円で、前年比5.3%高となった。

開市日数は前年より1日多かったが、忘年会需要の減少等により、業務向け商品の売れ行きが鈍かったことや、年末商材の単価高が影響し、鮮魚、冷凍魚、加工品ではいずれも前年より取扱数量は減少した。

鮮魚は、「かんぱち」、「さんま」の入荷が好調だっ

たものの、「ぶり」の入荷が少なく、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。冷凍魚は継続する産地価格の高騰により、前年比で取扱数量は減少し、平均価格は上昇した。